

2024年2月15日

2024年（令和6）カーボンブラック需要見通し

内閣府の2024年度(R6年度)経済見通しによると、「デフレ完全脱却のための総合経済対策」の進捗に伴い、個人消費や設備投資等の内需が牽引するカタチで、GDP成長率は実質で1.3%程度、名目で3.0%程度と前年2023年度より若干の鈍化が見込まれている。

一方、2024年の世界経済成長率見通しは、ロシアのウクライナ侵攻の長期化、イスラエルとハマスの紛争が続く中、3年連続で減速するという見通しが1月世界銀行から発表された。米国、中国、日本の主要国いずれもが景気減速に直面すると予想されており、2023年2.6%から2024年は2.4%に留まるとしている。また世界経済の更なる下振れリスクとして、①海上物流の停滞 ②中国経済の動向 ③世界のブロック経済化の3点が指摘されており予断を許さない厳しい一年となっている。

このような経済展望の中、カーボンブラック需要における主要需要先である自動車タイヤ需要について（一社）日本自動車タイヤ協会が、またゴム産業全体の新ゴム消費量について（一社）日本ゴム工業会が夫々2024年の需要見通しを公表した。

これによると、自動車生産台数は前年比1.8%増、タイヤ国内需要は同0.3%増と予想されている。一方、新ゴム消費量は自動車タイヤ・チューブで前年比0.6%増、一般ゴムで3.7%増、ゴム産業全体では1.2%増と予想している。

当協会では、これら（一社）日本自動車タイヤ協会と（一社）日本ゴム工業会の需要見通しをベースに、カーボンブラック輸出入の状況等を織り込んで、2024年のカーボンブラック需要の見通しを行った。その結果、カーボンブラック総需要は前年比1.2%増の685,850トンと見込んだ。

なお、「需要見通しの指標」については添付資料の【表1】、「カーボンブラック需要見通し」については同【表2】、「輸入見通し」については同【表3】を夫々参照願う。

以上

【表1】 2024年需要見通しの指標

『見通し』の前年比は前年見込み比%

	2022年実績		2023年実績見込み		2024年見通し	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
自動車生産 (千台)	7,835	99.8%	8,950	114.2%	9,108	101.8%
タイヤゴム消費 (トン)	1,003,020	98.8%	978,950	97.6%	984,820	100.6%
一般ゴム消費 (トン)	238,180	98.3%	248,350	104.3%	257,580	103.7%
新ゴム消費量計 (トン)	1,241,200	98.7%	1,227,300	98.9%	1,242,400	101.2%

【表2】 2024年カーボンブラック需要見通し

数量単位；トン、『見通し』の前年比は前年見込み比%

	2022年		2023年見込み		2024年見通し	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
タイヤ	462,392	98.0%	448,530	97.0%	450,798	100.5%
一般ゴム	135,763	98.3%	141,640	104.3%	146,672	103.6%
ゴム用計	598,155	98.1%	590,170	98.7%	597,470	101.2%
非ゴム	44,119	94.3%	38,790	87.9%	39,180	101.0%
内需計	642,274	97.8%	628,960	97.9%	636,650	101.2%
輸出	56,393	90.6%	48,701	86.4%	49,200	101.0%
[内ゴム用計]	15,158	86.3%	12,721	83.9%	12,850	101.0%
総需要	698,667	97.2%	677,661	97.0%	685,850	101.2%
[内ゴム用計]	613,313	97.7%	602,891	98.3%	610,320	101.2%

需要量はカーボンブラック協会による想定値

【表3】 2023年カーボンブラック輸入動向

数量単位；トン、『見通し』の前年比は前年見込み比%

	2022年実績		2023年実績見込み		2024年見通し	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
ゴム用	116,735	85.3%	100,233	85.9%	101,250	101.0%
非ゴム用	13,400	97.1%	10,165	75.9%	10,270	101.0%
合計	130,135	86.4%	110,398	84.8%	111,520	101.0%

ゴム用/非ゴム用の内訳はカーボンブラック協会の想定数値

以上